



滝上町外国語指導助手

Jordy's コーナー

私が住んでいたテキサスの冬の平均気温は18℃です。父は冬でも週末ゴルフに出かけます。この冬、-29℃になったときは本当に驚きました。週末家を空けると、部屋の中に置いてある飲み物が凍ってしまうなんて初めての体験です。雪道の歩行も初めてなので慎重に歩きましたが、4回も転んでしまいました。転んだときは周りに誰もいないか確認します。ゴミ投げのとき、ゴミを入れる籠の前で転んでゴミをばらまいてしまったこともあります。

雪はねはとても難しかったです。教育委員会の山室さんが車庫の屋根雪を下ろすのを手伝ってくれて本当に助かりました。除雪車が通った後の雪があんなに硬いとは知りませんでした。スコップを突き刺して、懸命に雪山を削りました。

この冬、私はスノーボードに挑戦しました。何度か桜ヶ丘スキー場でも滑りました。ローフトウはとても難しく、初めての時は何度も転んで青あざを作りました。桜ヶ丘では、滝上の子ども達やその家族と会い、声をかけてもらうのがとても嬉しいです。他にも、カムイやピアシリ、比布などのスキー場に行きましたが、私は初心者なので、短いコースで柔らかい雪のピアシリや比布スキー場が好きです。来年はスキーにも挑戦したいです。

1月の終わりにNHKから取材を受けました。2月5日の夕方のニュース見てくれましたか？滝上で初めての冬を体験する私の生活を撮りたいと、仕事の様子から雪道を歩くところ、料理をしているところ、スノーボードを滑っているところなど、いろいろ撮影されました。テレビカメラに撮られるのはとても恥ずかしかったです。

滝上の冬はとても厳しいけれど、この冬を乗り越えたことで、私を一回り成長させてくれたと思います。



節分には恵方巻を食べました。
願い事は「Happiness！」

どです。そして色々な飲み物や食品などがビン詰めされるようになります。これはビンの製造技術が進歩したことにもよるものです。日本酒はもともと樽詰で出荷され通い徳利(貧乏徳利)を用いた量り売りでしたが一升ビン詰めでの販売は明治34年の白鶴が最初といわれています。白鶴が北海道に販路を拡大したのは明治40年頃で昭和に入ると打栓機による王冠栓ビンに移っていますから、郷土館の一升ビンは大正時代の物と思われれます。中身と飲み終わった日本酒やサイダーの空きビンはその後も大切に使用されました。量り売りの醤油や苦汁の入れ物としたりランプの石油を入れたりしました。飲み物を入れて水筒にもなりました。

この機械栓の付いた白鶴のビンも空きビンとして重宝されたことでしょう。



資料：白鶴酒造提供



おぐり アイ 小栗EYE

郷土館管理人小栗さんに収蔵品の紹介や、それらにまつわるエピソードなどを紹介させていただきます！

「一升ビン」

生活歴史館の大ケースの中に青いガラスの一升ビンがあります。形は普通の一升ビンですが全体にエンボス(陽刻)のストライプ模様が入っています。普通紙のラベルが貼られるところには「白鶴」のエンボスがあります。このビンは兵庫県の銘酒白鶴の一升ビンなのです。随分古い物のようですがちょっとオシャレです。

このビンの栓は無くなっていますが「機械栓」というガラスか陶器で作られた栓を針金で密封するものです(開閉自在の栓です)。

ビンの栓は始め木やコルクの栓でしたが明治初期に機械栓が、中期に王冠栓が発明されて大正時代には各種栓が一斉に使われました。木栓、コルク栓、紙栓、機械栓、王冠栓、ネジ栓(内ネジ外ネジ)などです。